

【参考】

十和田市事務事業評価 外部評価（事前評価）集計表

事務事業名	介護予防事業 湯っこで生き生き交流事業	担当課	高齢介護課
-------	---------------------	-----	-------

1. 事前評価の結果集計

検証項目	指摘事項
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の元気づくりの目的や利用者にとっては良い事業だとは思いますが、人件費、事業費と利用者の実績を見た場合、妥当な事業かどうか。また、国、県の補助金がカットされた場合の継続事業として可能かどうか。これからますます高齢化社会となりますので、そのあたりの市の考えはどうか。 ・当市における高額な介護保険料での制度維持の現状からして、方法、手段は各種あるにしても、本事業のような予防介護への取組は必要不可欠と考える。 ・介護保険軽度認定者の減少、閉じこもり予防、生きがい対策等を狙いに実施しており、少子高齢化の中で妥当な事業である。 ・高齢者が健康的に生きがいをもって社会活動することにより、介護保険受給者抑制効果が大きいと認められる。 ・孤独死や自殺予防にもつなげられている。登録者不参加の理由を調査し、きめ細やかなサポート、ケアに努めるべきである。 ・温泉効果を期待し、高齢者の孤立化を防止するという本事業は、市の予算を使って行う事業として妥当と考える。
有効性	<ul style="list-style-type: none"> ・お湯に入りながら高齢者が交流の場をもつことは、大変良いことだと思います。 ・健康体操、温泉入浴等は、効果ある内容と考える。 ・高齢者にとって楽しみな入浴、健康体操(ストレッチ、筋トレ、口腔)、レクリエーション等を取り入れ、介護予防、健康づくりに役立っていると考えられる。 ・妥当性との整合性から考えると登録者増加(特に男性)のために、積極的なアプローチが必要。具体的な数値目標の設定、段階的な進捗状況のチェックなど、登録者の増加、参加率をさらに向上させる工夫が求められる。 ・リピーターが中心で新規参加者がいるために、利用者が増加しており、本事業が高齢者市民に受け入れられていると思われる。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・バス1台が運行しながらの事業からみると、もう少し参加が増えると効率性が上がるのではないかと。町内会を通してのPR活動とか、ボランティアを募ってはどうか。 ・週1回の送迎バス付であるのだから、参加負担金を考えるべきではないか。例えば1日500円(入浴料込、昼食別)とか。 ・全市を網羅し、高齢者を対象とした事業であり、介護給付がますます増えていく中で、新規介護認定者の減少等につながる効果が期待できる。 ・高齢者の特性と事業の内容と質からしても、安全、衛生面での特段の熟慮が必要であり、経済性、効率的見地からのみ進められない。 ・1回平均で約30人弱の参加に対して、7+1名の職員が関わっているので、安全面やきめ細かさに問題はないと考える。今後、実施回数の増加を考えるとしたら、どのような方法があるのか伺いたい。 ・この事業は介護施設等の充実により行政が行わなくても利便性が損なわれないと思うので廃止したらどうか。
公平性	<ul style="list-style-type: none"> ・女性の参加が多いように見えますので、男性がもっと参加できる工夫づくりが必要かと思われます。その辺については、来年度以降継続するとすれば何か考えているのか。 ・特定の利用者に限られた事業になっていないか。 ・広報や出前講座等で周知が図られており、問題はない。 ・当該対象者のみならず、広く事業内容(利用者の声も含め)を周知する。 ・世代間でたがいに興味、関心、理解が深められる機会となり、刺激し合う中では、ロコモ(※)予備軍(20~70代男女45.8%、50代は半数)の予防と啓発につなげられる。※「ロコモティブシンドローム」(運動器症候群)の略。現在は自立できているが、近い将来、要介護になる危険性が高い症状を持っている状態や、すでに要介護になってしまっている状態。 ・問題はないと思われるが、男性の参加割合が低いのは各年代別の男女比率に関連するだけなのか、男性が参加しにくい理由があるのか知りたい。もっと、男性参加率を向上させても良いのではないかと。 ・多少偏っている。65歳になった方へのPR不足に思う。せっきやく町内会があるので、町内会のある地域は回覧板等を利用して周知をしてはどうか。
事業の方向性	<p>さらに重点化を図る ■■</p> <p>現状のまま継続 ■</p> <p>有効性を改善して継続 ■■</p> <p>効率性を改善して継続 ■■</p> <p>公平性を改善して継続 ■</p> <p>事務事業の統廃合を図る ■</p> <p>休止</p> <p>廃止 ■</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防を考えると、高齢者になる前に病気にならないための(要介護)事業が必要ではないでしょうか。県立の多目的室内スポーツ施設(四季を通して体を動かせる)とか。 ・多くの高齢者の参加を促す観点から、行事日程を事前に市民に伝えるなどして、各自の自動車等での直接会場参加も受け付けるべきではないか。 ・この事業の大きな狙いは、年々介護給付が増加する中で、いかにして介護認定者の減少を図っていくのか、家庭に閉じこもっている高齢者の生きがいがいづくりに結び付けていくか、が大きな狙いであり、短期間では大きな成果は期待できないものと考えます。長期的に取り組む事業であり、さらに内容等を充実させる必要がある。 ・高齢者が満足感を持ち、心豊かに過ごし、健康保持と推進のために事業内容をさらに充実させる(たとえば”食改”、”こころの会”等、栄養、心などのケアサポートボランティアとの協働)。 ・高齢者が地域の中で生きがいをもって社会活動に参加することによって長寿になり、平均寿命向上にもつながる。 ・参加者の声では、身体(ひざ、腰等)の痛みが無くなったとか、他人と交流することの良さをあげているので、効果はあると思う。高齢者が増えてくるので継続したほうが良い。心のケアにもなる。 ・十和田市における高齢者のボランティア参加率やサークル参加率が低いという報告を見たことがある。引きこもりの高齢者を減らし、運動機能などを改善する効果が期待できる温泉と体操の活用は、軽費で実現できる要介護者減少策と思われる。今後しばらくは増加する高齢者を心身共に健康に維持するために良い事業と思う。 ・男性の参加者が少ない。なぜ、男性の参加者が少ないのか、アンケートを取ってはどうか。 ・バス代として金額を決めていただいてもよいと思う。また、弁当が出る日を設けてはどうか。 ・年齢を 65 歳くらいから引き上げてはどうか。 ・廃止すれば人的にも金銭的にも余裕ができるのではないか。
--	---

2. その他質問・提言等（活動指標、成果指標の設定の仕方について等）

	<ul style="list-style-type: none"> ・介護認定者と介護給付額の実績について(過去 3 年間の実績) ・介護予防事業への取組状況について(湯っこで生き生き交流事業以外) ・利用回数、コースの限定はあるのか。 ・温泉施設と包括支援センター2 コース設定の趣旨は何か。 ・異性の参加が 4%と少ない。何か対策を考えているか。人数が少ないので、と声を掛けられ、集会所の健康教室に行ったら 30 人くらいの中で男性が 2 人だけだった体験がある。 ・介護保険申請の抑制効果に関しては良く理解できないので、詳しいデータを示し、説明をして欲しい。 ・65 歳以上の方全員に介護予防事業「湯っこで生き生き交流事業」の案内が届くのか。参加したい方全員が参加できるか。 ・介護予防事業、要支援、要介護等、必要としなかった高齢者に何かメリットがあるか。 ・一人住まいの高齢者の支援はどのようにしているか。現在の参加者の平均年齢はどれくらいか。
--	--